

「戦後80年の祈り」について

日本バプテスト連盟理事会では、敗戦後80年を迎えるにあたり、「祈り」の言葉を共に編みました。

私たちの国に限れば、戦後という言葉を用いていますが、この間も世界中で争いは絶えず、今も戦争の悲劇が続いています。このような状況の中にあって、「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」との、イエスの言葉の前に立ちつつ、祈りの言葉を紡ぎました。

戦後80年にあたり、皆さまと共に祈り合わせたく願い、「戦後80年の祈り」を連盟ホームページに掲載いたします。

2025年7月15日
日本バプテスト連盟
理事長 松本素代美

「戦後 80 年の祈り」

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

マタイによる福音書 5 章 9 節

主よ、戦後 80 年を迎え、私たちは今一度、イエス・キリストのみ言葉の前に立ち、その言葉に問われつつ、祈りを捧げます。

主よ、私たちの国はかつて、戦争を選び、戦争に向かって歩きました。私たちを含め多くのキリスト教会もその歩みに追従しました。権力に屈し、「正義」の名のもとに反戦の言葉を発することをためらいました。平和の言葉を掲げる者たちの前で沈黙し、暴力に加担し、そして多くの人に苦しみと悲しみを与え、いのちを奪いました。

先の大戦から 80 年経た今、世界中で新たな戦いが繰り返されています。そして、私たちの国もこの流れに流され、鋤を打ち替えて、剣とする中に立たされています。それ故、今という時代は「戦後」ではなく、すでに「戦前」であるとの警鐘が鳴らされています。

主よ、このとき、「剣を鋤に打ち替えよ」とのあなたの言葉を大胆に語り、国や権力に縛られることなく、良心の自由に基づいて平和の声を上げる教会でありますように。

核被爆国に生きる私たちが、ヒロシマ、ナガサキの核の惨劇を再び起こさないよう祈り行動し、核の傘を閉じることができるよう。剣による平和ではなく、鋤によって生み出される和解と平和を求め、歩みだすよう、私たちを押し出してください。

主よ、私たちは「敵を愛しなさい」とのイエスの言葉に立ち、他者の命と尊厳のために祈ります。そして、「受けるより与える方が幸いである」とのイエスの言葉に立ち、与え・分かち合う幸いと平安を求めます。

主よ、私たちは平和を実現するものでありたいと願います。

戦後 80 年を迎えるこのとき、平和を実現するために、私たちと教会をお用いください。

主よ、私たちの弱さを憐れみ、御心に従い歩む信仰と、聖霊の導きをお与えください。

主の御名によって、祈ります。

2025 年 8 月

日本バプテスト連盟 理事会